

つくば市中心部における筑波山の眺望状況

名倉一希（地球科学専攻）

1. 目的：観光者や住民が抱く「筑波」のイメージを構成する筑波山の眺望状況を明らかにし、その要因を考察することを目的とする。
2. 対象地域：第1図の調査対象道路で構成されている地域である。都市開発の進む研究学園駅とつくば駅の2駅周辺と学園都市開発以前の道路が残る苅間地区周辺を選定した。対象道路は幅員 3.0m 以上の道路とし、歩行者からの眺望を調査するため国道・県道については車道両側の歩道を別の道として扱った。また、公園等公共施設内の道や行政管理のペDESTリアンデッキも対象とした。
3. 研究手法：筑波山の眺望状況を3段階に分類し、GPS 端末でその区間を記録し、ArcMap で地図化した。その上で対象の3地域を比較するため、各地域内半径 500m のバッファをかけ、眺望可能範囲をフィールド演算で算出した(第1表)。さらに眺望状況と都市開発の関連を考察するため、バッファ内における用途地域属性毎の面積をジオメトリ演算で算出し、眺望状況と合わせてクロス集計を行い、分析した。
4. 結果・考察：第1表から研究学園周辺の見え方が「見える」が 20.97%と他2つに比べて非常に高い。これは用途地域の構成からみると低層住居専用地域の割合がつくばセンターに比べて高く、中高層住居専用地域の割合が低いためと言える。現地調査

においても研究学園ではつくばセンターよりも建物が低く眺望が妨げられにくかった。さらに工業地域が 23.87%と突出して多いが、現在その多くが更地であり、筑波山方面に立地していることから、研究学園では眺望が確保されている。一方、つくばセンターでは中高層の住居や商業施設が多く、眺望が妨げられていた。これは用途地域の構成からも言える。

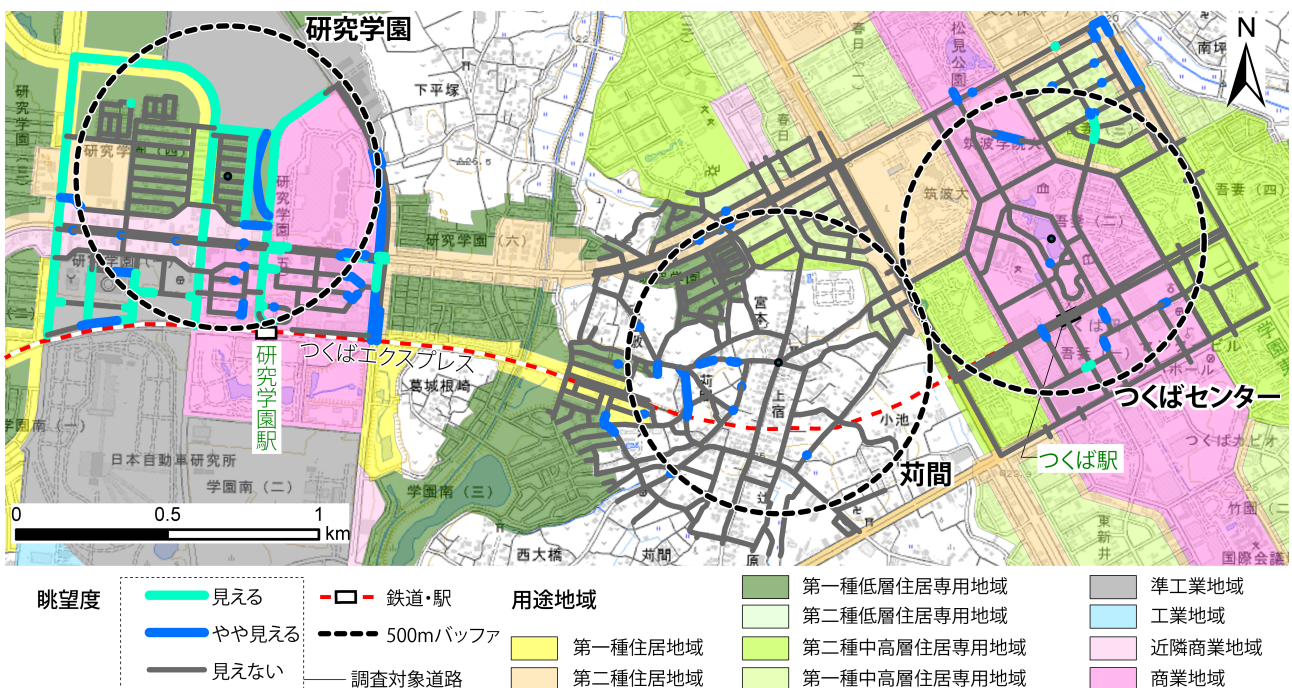
苅間地区は、ほぼ南北に通る道路に明治期以前から集落が存在し、そこからの眺望が予想されたが、道路は筑波山の方角からずれており、地域内の市街化区域は少ないものの、つくばセンター地区の高層建築物により眺望が妨げられるケースが多かつ

第1表 半径 500m バッファ内の眺望状況と用途地域の関係

| 地域 | 用途地域面積 (㎡), ()は% | | | | 眺望状況 (km), ()は% | | | |
|---------|-------------------|-------------------|-------------------|-----------------|------------------|----------------|----------------|-----------------|
| | 低層住居専用地域 | 中高層住居専用地域 | 商業地域 | 工業地域 | 用途地域面積合計 | 見える | やや見える | 見えない |
| つくばセンター | 0.0 (0.0) | 22353.6 (28.6) | 46807.3 (59.9) | 0.0 (0.0) | 78103.5 | 0.11 (1.0) | 0.21 (2.0) | 10.57 (97.1) |
| 苅間 | 5985.5 (30.2) | 9020.3 (45.6) | 0.0 (0.0) | 0.0 (0.0) | 19798 | 0.00 (2.1) | 0.29 (97.9) | 13.34 (97.9) |
| 研究学園 | 16947.9 (21.6) | 1691.3 (2.2) | 34545.1 (44.0) | 18728 (23.9) | 78469.5 | 2.76 (20.1) | 0.66 (5.0) | 9.74 (74.0) |
| 合計 | 22933.4 | 33065.2 | 81352.4 | 18728 | 176371 | 2.87 | 1.16 | 33.66 |
| | | | | | | 37.68 | | |

(現地調査により作成。用途地域は平成 23 年度国土数値情報用途地域データを使用した。)

た。



(現地調査により作成。下図は地理院地図を、用途地域は平成 23 年度国土数値情報用途地域データを使用した。)

注) 調査日時は 2016 年 2 月 10 日 (天気: 晴れのち曇り), 11 日 (天気: 快晴のちくもり) の両日 09:00~17:30 である。